





第2図 北ブルガリアの油田・ガス田の分布状況 (レービンほか 1972)

凡例：

- |                 |                              |
|-----------------|------------------------------|
| 1—ドナウ (ミジア) 卓状地 | 2—カルパート・バルカンアルプス褶曲区西前バルカン構造帯 |
| 3—同東前バルカン構造帯    | 4—同南カルパート概造帯                 |
| 5—下カムチャ前陸盆地     | 6—ドナウ卓状地内の大型構造単元の境界          |
| 7—大型断層          | 8—油田・ガス田区境界                  |
| 9—既知油田・ガス田帯境界   | 10—可採油田                      |
| 11—非可採油田        | 12—可採ガス田                     |
| 13—非可採ガス田       |                              |

A—前カルパート・バルカン油田・ガス田区 南部油田・ガス田区  
 B—バルナ油田・ガス田区

地質構造単元：

- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| I—北ブルガリア地膨        | II—ドブリツ山塊南斜面       |
| III—レーフ ライズ群      | IV—プレバン ライズ群       |
| V—ビジン-ストレハヤ地膨南斜面  | VI—ローム堆積盆地         |
| VII—ボロバンツチエニツ凹地   | VIII—アレクサンドリア凹地南縁帯 |
| IX—ツトラカン堆積盆地      | X—バルナ凹地            |
| XI—チルゴビシテ-プロバジ構造階 | XII—プロバジ堆積盆地       |

油田・ガス田帯：

- |             |
|-------------|
| a—ジブニコ      |
| b—ギゲン-コラビア  |
| c—デベタク-パブリキ |
| d—チュレノボ     |
| e—ムラモル      |
| 1—ドルニ・ジブニコ  |
| 2—ゴルニ・ジブニコ  |
| 3—デベタク      |
| 4—チュレノボ     |
| 5—チレン       |
| 6—ゴリヤモ-ベシユテ |
| 7—ゴモタル      |
| 8—ギゲン       |
| 9—クラベツ      |
| 10—プラトニツ    |
| 11—ボルガレフ    |
| 12—下ムカチャ    |

図上の数字(油田・ガス田)：

このような実態から ブルガリアのエネルギー産業の発展は次のような特徴を備えてきている。一つには国内資源の有効利用 一つには燃料とエネルギーの輸入で後者の割合が大きい。

まず 1960年代になって ブルガリア最大のマリツァ炭田区の炭田群が開発に入り 露天掘されたその樹炭は3個所の大型火力発電所で使用され 今日に及んでいる。さらに山地の河川では 水力発電所系列が建設され ドナウ川でもルーマニアと共同して多目的ダムの建設が進んでいる。ブルガリア最初の原子力発電所も運転を始めた。

燃料とエネルギーの輸入は 海路によるソ連からの石炭(ドネツ炭)と石油 パイプラインによるソ連からの天然ガス ルーマニアを経由したモルダビア発電所群から

の電力が主体である。

冶金部門では 銅 鉛 亜鉛を主として非鉄冶金が盛んである。また 国内産の鉄鉱を基礎にした大型製鉄所(ソフィア近郊のクレコモコフツィ鉄鋼コンビナート)がソ連の援助をうけて新設され 操業を始めた。

化学工業部門では 化学肥料(とくに窒素肥料)と苛性ソーダの生産がぬきんでている。ブルガリアの石油化学工業の先駆となったブルガス石油化学コンビナートはソ連産の石油に依存して操業している。

機械製造部門では 電動フォークリフト 電気機器 工作機械 トラクターの生産が主力で 最近では電算機類の生産が急増している。造船トン数も多くなってきた。各種の機械製造の主な中心地はソフィア 造船はバルナ 農業機械はルーセである。

### 外国貿易

ブルガリアの貿易相手国の数は113で 社会主義国の中ではきわだっている。 そのうち 貿易協定を結んでいるのは72か国である。 ただし この数字は1970年のものであるから 現在はさらに多くなっていると思われる。 しかし 貿易総額の $\frac{3}{4}$ 以上が社会主義諸国相手 で 取引の筆頭は東ドイツ それにチェコスロバキア ポーランド ソ連が続く。

### 我が国との関係

ブルガリアは1955年12月に国連に加盟し 我が国とは

1959年9月に国交を回復して1960年に公使を交換したが 1964年6月になって それぞれ大使に昇格させた。 1970年の大阪万国博覧会を契機にブルガリアは急速に親日に傾き 以来 対日感情はきわめて良好である。

我が国の対ブルガリア貿易総額は 1978年の場合 7,361万ドル (対世界総額の0.04%) うち日本からの輸出は5,540万ドル (対世界輸出総額の0.05%) 日本への輸入は1,821万ドル (同しく輸入総額の0.02%) にすぎないが いずれも増加の傾向にある。 日本からの輸出は主として鉄鋼と電子工学設備 日本への輸入品は食品と絹糸などである。

## 地質図の販売について

### 資料室

地質調査所発行の地質図類については 広い層の方々にご利用いただいておりますが 今後ともより一層ご利用いただけますよう 地質図類の販売価格をお知らせ致します (56年度発行分)。

なお 今後発行されるものにつきましては 逐次お知らせ致します。

### 地質図販売所 ・東京地学協会

102 東京都千代田区二番町12-2

(03)261-0809

### ・地学文献センター

183 東京都府中市栄町1-1-16

(0423)62-5050

### ・その他各地主要書店

地 質 図 名	販売価格(円)	地 質 図 名	販売価格(円)
1/500万 日本地質図 (第4版)	1,340	(1:100万)	
1/200万 日本の火山 (第2版)	1,350	18 小笠原島弧南部及びマリアナ島	2,530
1/20万 名古屋 (第2版)	1,670	弧北部広域海底地質図 (1:100	
〃 延岡	1,880	万)	
〃 姫路	1,830	19 中部太平洋フリー・エア重力異	1,390
〃 松江・大社	1,850	常図 (1:200万)	
1/5万 越後湯沢 (説明書付)	2,940	構造図6 秋田・山形地域活構造図 (1:20万)	2,060
〃 石岡 (〃)	1,840	活構造図 東京 (1:50万)	1,510
〃 古川 (〃)	1,840	特殊地質図21-1 豊肥地熱地域地質図 (1:10	2,310
〃 横浜 (〃)	2,390	万) (説明書付)	
〃 松島 (〃)	2,550	〃 22 静岡・御前崎及び横須賀地域	780
〃 中甕 (〃)	2,390	重力図 (1:20万)	
〃 象潟 (〃)	2,390	水理地質図31 長野県千曲川及び犀川流域水	1,620
〃 三日町 (〃)	2,390	理地質図 (1:5万)	
〃 静岡 (〃)	1,840	空中磁気図28 常盤沖東方海域	1,030
〃 大阪西北部 (〃)	2,390	〃 29 日本周辺海域	1,030
〃 諸塚山 (〃)	2,390	〃 30 三陸沖東方海域	1,030
海洋地質図16 紋別沖表層堆積図 (1:20万)	2,460	日本地質図索引図 第4集 1975—1979	6,000
〃 17 小笠原島弧北部広域海底地質図	2,600	地質図目録図 1982	580